

中学校外国語科学習指導案

廿日市市立大野中学校 授業者：藤井 典子

日 時：平成 25 年 7 月 9 日（火） 4 校時

学年・組：第 2 学年 1 組 16 名（男子 9 名，女子 7 名）少人数習熟度別基礎コース

単元名：Writing Plus 2 「メール ー気軽なメッセージを書こうー」

単元について

(1) 単元観（今回扱う教科書の単元）

中学校学習指導要領外国語（平成 20 年）には「ウ 読むこと」の指導項目の「(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」が示されており、読後の活動を念頭に置いて、話の内容や書き手の意見などを、自分の知識や経験と関連付け、理解、評価するように読むことが求められている。

この単元では、受信したメール内容について、文の構成、内容について読み取ること、その後、受信メールと整合性のある返信メールを書くこと、という 2 つの技能を統合した言語活動を行う。

このような「読むこと」と「書くこと」の活動を通して、書かれた内容や考え方等を批判的にとらえる力、つまり読んだ内容に対する自分の考えなどを示すことができるように、書かれた内容を自分の体験や考えに照らし、理解、評価しながら読む力を付けたいと考える。

本単元は、メールを読んだり書いたりするという生徒にとって身近な題材であり、文の構成、内容等の複数の視点から分析できるため、批判的にとらえて読む力を高めることに適した内容であると考えている。

(2) 生徒観

本校生徒は、本年 1 月に実施した標準学力調査において、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域のうち、特に「読むこと」について平均正答率が 59.3%であり、全国 59.8%、廿日市内 64.0%のいずれと比較しても下回っていた。このことから「読むこと」について課題があるといえる。

また、本クラスにおいて、4 月に行ったアンケートでは「教科書の文章を読むとき、自分の体験や考えと関連付けて読んでいますか。」という質問項目に対し、肯定的な回答は 16 名中 2 名にとどまり、書かれた内容を、主体的に考えたり判断したりしながら読むことについてほとんどの生徒ができていないことが分かった。6 月に教科書の絶滅危惧種に関する情報を読み取った後、“What can we do?” という設問に対し、日本語で答えることができた生徒は 16 名中 7 名であり、半数に及ばなかった。

これらの数値結果から、「読むこと」について課題があることは明らかである。授業においては、指示したことや発問に対し、素直に反応したり、質問したりするなど意欲は高いが、主体的に読み取ったり批判的に読み取ったりする力に課題がみられる。

(3) 指導観

教科書の題材を自分の体験や考えと関連付けて読むことができるよう、生徒の思考の流れを意識した段階的な学習活動を展開する。段階的な学習活動とは、導入段階の事前活動（Pre-Reading）、理解・思考を深める段階の事中活動（While-Reading）、表現段階の事後活動（Post-Reading）の三つである。それぞれの段階に応じて、生徒の思考が深化するよう、本文から情報を取り出させるための事実発問、本文中の情報を関連付けて考えさせるための推論発問、本文のテーマ等について自分の考えをもたせるための評価発問を効果的に取り入れる。

Pre-Reading では、これから読む英文メールに対して興味をもてるよう、日本語と英語の絵文字表現の違いや英文メール特有の略語を紹介した後、本文や 2 種類の受信メールのモデル文の概要を把握させる。

While-Reading では、受信メールの内容をもとに、返信メールを書くにあたり、2 種類のモデル文のそれぞれの特徴を事実発問を通して形式と内容の 2 つの観点で把握させる。モデル文について推論発問し、受信メールに対する返信メールとして、どちらがよりふさわしい内容であるか比較させる。このように複数の文章を読んだり比較することは、自分の考えを作りだしたり深めたりする手がかりになると考える。

Post-Reading では、評価発問を取り入れ、2 種類のモデル文のどちらか一方を選択させ、自分の体験や考えなどに照らして、モデル文にどのような情報を付加すると、適切な返信メールを作成することができるのかを考えさせる。

単元の目標と評価規準

(単元の目標)

○受信メールの内容から書き手の意図などを主体的に考えたり，判断したりしながら読み取る。

○受信メールを読んで，その内容を踏まえた返信メールを英語で書く。

(単元の評価規準)

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
繰り返して読んだり読み返したりして読み続けている。	場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。	①語句や表現，文法事項等の知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。 ②受信メールの内容から書き手の意見などを，批判的に読み取ることができる。	メール特有の文形式や略語，日本語と英語の絵文字表現の違いなどを理解している。

指導と評価の計画

(全4時間)

次	学習内容	評 価				評価規準	評価方法
		関	表	理	知		
一	○本単元の目標を知る。 ○メールの文形式を知る。 ○略語や絵文字について，日本語と英語の共通点・相違点に気付く。 ○受信メールの内容を読み取る。 ○2種類の受信メールの概要を理解する。 (2)			○	○	ウ ①語句や表現，文法事項等の知識を活用して内容を正しく読み取ることができる。 エ メール特有の文形式や略語，日本語と英語の絵文字表現の違いなどを理解している。	活動の観察 ワークシート
二	○2種類の受信メールのそれぞれの内容について読み取る。 (事実発問) ○2種類の受信メールを比較し，それぞれの内容について，情報の妥当性を読み取る。 (推論発問) ○2種類の受信メールについて，相手の意図をくみとり，適切に応じる文とはどのような文なのか自分の考えをもつ。 (評価発問) 【本時】 (1)			◎		ウ ②受信メールの内容から書き手の意見などを，批判的に読み取ることができる。	ワークシート
三	○返信メールを書く。 (1)	○	◎			ア 繰り返して読んだり読み返したりして読み続けている。 イ 場面や状況にふさわしい表現を用いて書くことができる。	活動の観察 ワークシート

本時の学習

- (1) 本時の目標
受信メールの内容から書き手の意図などを主体的に考えたり、判断したりしながら読み取る。
- (2) 本時の学習展開

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準 (評価方法)
見通しをもつ	1 本時の目標の確認と復習 (5分)		
	○あいさつ ○本時のめあての確認	・自己評価カードへ次の内容を記入させる。 (日付, 天気, Today's Goal)	
	めあて ケビンからのメールの意図を読み取り、さくらの立場で考えた返信メールに必要な内容を説明できる。		
見通しをもつ	○2min. 視写 視写ノートに本文を正しく書き写す。その後、自分が書いた英文を音読する。	・時間内により多くの英文を正確に速く写させた後、記録を記入させる。 ・自分が視写した英文を音読させる。	
	2 前時の振り返り (5分)		
	○受信メールの内容確認 (資料①, ②)	・形式と内容の2つの視点でまとめた表をもとにケビンが伝えたかったことを口頭で確認する。	
自分の考えをもつ	3 While-Reading (25分)		
	○2種類の受信メールの内容確認 発問 今日ケビンは学校で何をしましたか。など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で音読後、口頭での上記のような事実発問により内容を確認する。 ・個人でメールの特徴をワークシートの表にまとめ、気付きを書く。 (資料③, ④) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の受信メールについて、2つの視点(①形式, ②内容)をまとめ、比較できるように記入させる。 ・ペアで気付きを交互に言わせた後、全体で気付きを確認させる。
考えを交流する	○A→Iの文ばかり/きちんと応答している B→略語・絵文字が多い/I以外の文もある		
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の推論発問により、内容読解を深める。 ・受信メールの全文を読み、気付きのメモをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文やモデル文から根拠を探し出し、推測した理由として挙げるようにうながす。 	<ul style="list-style-type: none"> ウ②受信メールの内容から書き手の意見などを、批判的に読み取ることができる。 (ワークシート)
	発問 ケビンはメール(A・B)を受け取ったらどんな気持ちになるでしょうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・本文やモデル文から根拠を探し出し、推測した理由として挙げるようにうながす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○A: 「几帳面だ」 →ぼくの質問にすべて答えているから。 「楽しめない」 →ぼくに対するメッセージがないうえ、略語・絵文字もないから。 ○B: 「嬉しい」 →略語・絵文字が多いうえ、週末の金魚すくいのプランまで提案してくれているから。 「戸惑う」 →体調を心配したのに、そのことにはふれず、自分のペースでメールを書いているから。 	

さらに深める	4 Post-Reading (10分)	
	○返信メールの比較・統合	
	発問 あなたがさくらなら、ケビンのメールに対して[A]（または[B]）ならばどのように改善しますか。	
	・ペアで全体で上記の評価発問に対する考えを交流する。	・クラスを TypeA グループ、TypeB グループの2つに分ける。その後、各グループの中でペアになり、改善点を交流する。 ○A グループの改善点 絵文字や略語を取り入れる。 ケビンに対する問いかけの文を付け加える。 ○B グループの改善点 今の体調を伝える英文を付け加える。 略語を減らす。
振り返る	5 本時の学習の振り返り (5分)	
	○本時の学習の振り返り	
	まとめ 例： A ケビンへの親しみをこめた文や絵文字・略語を取り入れる。 B ケビンの問いかけに対して自分の健康状態を伝える。	
	○次時の予告と家庭学習の提示	
	○あいさつ	

資料①

【はじめのあいさつ】 Hi, Kevin. Type A
【本文①】 Thank you for your kind e-mail.
【本文②】 I feel fine now.
【本文③】 I'm not sick in bed anymore. ※今はもう
【本文④】 I'm not so bad.
【本文⑤】 I can go to school tomorrow.
【終わりのあいさつ】 I hope to see you tomorrow, too.
【署名】 Sakura

資料②

【はじめのあいさつ】 Hi, Ki! Type B
【本文①】 THX for your e-mail :-)
【本文②】 BTW, how was today's test? Perfect? :-)
【本文③】 I am studying for the math test.
【本文④】 Do you have any plans for this weekend?
【本文⑤】 Let's trykingyo sukui again :-)
【終わりのあいさつ】 GNSB.
【署名】 Sakura

資料③ Type A

	形 式	内 容
1	絵文字・略語 () 箇所	・ ・ ・ ・
2	本 文 () 文	
3	主語 I () 文 You () 文	
4	その他の文 () 文	

資料④ Type B

	形 式	内 容
1	絵文字・略語 () 箇所	・ ・ ・ ・
2	本 文 () 文	
3	主語 I () 文 You () 文	
4	その他の文 () 文	

- ① さくらは、何に対して感謝しているのですか。
- ② さくらは今、体調はどうですか。
- ③ さくらは明日学校へ行けるでしょうか。

- ① さくらはケビンのメールに対して応答していますか。
- ② さくらはどのような性格なのでしょう。
- ③ さくらはケビンのメールに対してどんな気持ちで返信していると思いますか。

- ① 次の略語はどういう意味ですか。

THX ☞

BTW ☞

GNSD☞

- ② 今日ケビンは学校で何があったのでしょうか。
- ③ さくらがケビンにあることを提案しています。その内容を具体的に説明しなさい。

- ① さくらの体調は今どうだと思えますか。
- ② さくらはケビンのメールに対して応答していますか。
- ③ さくらはどのような性格なのでしょう。
- ④ さくらはケビンのメールに対してどんな気持ちで返信していると思いますか。